

第1回（仮称）新館清掃施設整備及び運営事業評価会議 会議録

1. 開催日時 平成 29 年 9 月 14 日（木）午後 1 時 55 分～3 時 10 分
2. 開催場所 八王子市役所本庁舎議会棟 4 階第 5 委員会室
3. 出席者 荒井様、千葉様、宇田川部長、佐久間部長、原田部長、守屋部長 以上 6 名（※欠席 宮脇様）
4. 事務局 [清掃施設整備課]
岡田課長、堂本課長補佐兼主査、杉山主査、矢崎主任、松島主任、岩崎主事
[アドバイザー]
日建技術コンサルタント 堀、井手

5. 会議次第

1. 開会
2. あいさつ
3. 出席者自己紹介
4. 座長・副座長の選任
5. 座長あいさつ
6. 評価会議開催要綱等について
7. 議事
 - (1) 事業の概要（案）について
 - (2) 要求水準書（案）について
 - (3) 今後のスケジュールと議事案について
 - (4) その他
8. 閉会

6. 会議結果

【開会】

【あいさつ】

【出席者自己紹介】

【座長・副座長の選任】

- ・事務局の推薦により座長に荒井様が選任された。
- ・荒井座長の推薦により副座長に宮脇様が選任された。

【座長挨拶】

【評価会議開催要綱等について】

＜議事＞

- ・事務局より評価会議開催要綱等について説明。

＜質問・意見等＞

《参加者》会議を非公開とするとのことだが、八王子市の会議は条例に基づき全て原則公開となっている中で非公開とする理由は何か。時限的非公開とするのかも含めて参加者の皆様に説明しておいたほうが良いと考える。

《事務局》会議の非公開については基本的に傍聴の非公開ということを考えている。会議録や発言の内容等は要旨を原則公開する予定であるが、事業者選定に係る部分については公平性を保つため部分的に非公開とすることを考えている。

《参加者》会議結果はどこかに報告するのか。

《事務局》会議の中でいただいた意見を反映し市内部に報告したいと考えている。

《参加者》あくまでも専門的な見地からご意見をいただき市の判断材料にさせてほしいとの位置付けでよいか。

《事務局》そうである。

《参加者》メーカーの技術的ノウハウに係る部分が議論された場合について非公開とするということで進めたいと考える。

【議事（１）事業の概要（案）について】

＜議事＞

- ・事務局より事業の概要（案）について説明。

＜質問・意見等＞

《参加者》処理対象物として可燃ごみと不燃ごみがあるが両方処理するのか。

《事務局》不燃ごみについては、市民の持ち込みごみの処理を行うことを考えている。

《参加者》剪定枝は回収しリサイクルとなっているが、どういう処理を行うのか。

《事務局》現在ごみ処理基本計画の改定の準備を進めているが、現行のごみ処理基本

計画の中でも剪定枝のストックヤードの整備を謳っている。それを踏襲し、新館清掃施設内にストックヤードを整備して回収し、リサイクル可能な施設に運搬することで資源化の向上にも繋がると考えている。

《参加者》今回の施設はよりよいものがより安く整備できれば一番いいと考えている。そうした中で一つのポイントとなる処理方式は今回ストーカ式または流動床式とのことだが、この2つを認めることで国内の主要メーカーはほとんどが提案可能と考えてよいか。

《事務局》処理方式を限定すると競争の幅を狭めてしまう恐れがあるため、ストーカ、流動床ともに認め、公募の幅を広げていきたいと考えている。

《参加者》現時点ではこの事業概要案を基に検討していくという理解でよいか。

《事務局》そうである。

《参加者》事業者の業務の期間だが、20年間超とあるが、20年間と設定した理由は何か。

《事務局》基本的に清掃工場自体の寿命が25年前後になるかと思う。まず20年運営し、その後については、寿命の5年前に協議を始めて寿命後10年、15年使っていくことを検討するものと考えている。

《参加者》25年ではなく、施設を35年間は稼働させるという考えか。

《事務局》そうである。

《参加者》事業方式としてDBO方式を予定しているとのことだが、DBO方式とすることによって事業者が限定されることはないか。今までの発注方式なら広く参入の機会があったが、DBO方式としたことにより大手だけに限定されてしまうことはないか。

《事務局》今後審査基準等について評価会議の中で意見を求めていきたいと考えているが、地元企業の活用等についても審査基準に含めるなど、プラントメーカー、ゼネコンの下請けなどである程度の市内業者の参加の機会は確保していきたいと考えている。

《参加者》広い意味での競争性が働くようにしてほしい。DBO方式で大手しかできなくて今まで参入していた業者が参加できなくなると競争性が働かなくなってしまうため、その辺は考えてほしい。

《事務局》多くの企業が参加できる要件は設定していこうと考えている。社会情勢や

人の問題で応募してくるかどうかは別だがなるべく広く公募していきたいと考えている。

《参加者》他事例でも大手、ゼネコンだけでなく、地元業者も参入できる仕組みを作っているケースが多いと考えるため、その辺は今後十分検討していきたいと考える。

《参加者》施設規模が2炉で160t/日ということだが、現行の北野清掃工場と比較してどうなのか。また、この先20年以上稼働するという中でごみ量の減少等を考慮した規模の適格性を説明してほしい。

《事務局》現状の北野清掃工場の規模は100t/日で1炉である。戸吹清掃工場が現状300t/日で3炉であり、うち2炉が延命化工事を行っている。現状は北野清掃工場と戸吹清掃工場あわせて400t/日だが、今後は戸吹清掃工場と新館清掃施設をあわせて360t/日と規模の縮小は図っており、今後のごみ量の減少を見込んで規模を設定している。高齢化が進んでいく中で分別が出来ない等も考慮する必要があると考えており、160t/日は適正な数値であると見込んでいる。

《参加者》小動物の死骸を焼却するということになっているが、流動床式の場合そのまま処理できないため、別途小動物用の焼却炉を設ける必要があるのではないかと思うが、その辺は事業者提案に任せるのか。

《事務局》戸吹清掃工場でも動物焼却炉を別途設けており、今回も施設規模の160t/日の中で焼却するのではなく、別途動物焼却炉を整備する予定である。

【議事（2）要求水準書（案）について】

＜議事＞

- ・事務局より要求水準書（案）について説明。

＜質問・意見等＞

《参加者》近年オリンピックの前ということもあり建築の見積をとると大変高価となるが、オリンピック後に整備するなどの考慮はしないのか。

《事務局》経済性には配慮する必要があると考えている。しかし、北野清掃工場の老朽化が進んでいるため、北野清掃工場に替わる施設を早急に整備する必要があると考えている。

《参加者》見積はプラントメーカーから徴収したのか、それとも建築業者からも徴収

したのか。プラントメーカーが建築業者とあわせて見積を出しているのか。

《事務局》基本的にプラントメーカーだとプラントの設備しか見積れないと考えるため、建築工事はゼネコンにプラントメーカーが依頼してトータルとして見積を出していると認識している。

《参加者》見積徴収は今後の評価会議の進め方にどう影響してくるのか。

《事務局》この会自体には直接は影響しないと考えている。

《参加者》この要求水準書が持つ意味合い、今までの清掃工場との違いや特色の説明がないと審議出来ないと考えるため、次回の評価会議以降になると思うが、説明してほしい。

《事務局》設備に関する部分については、プラントメーカーそれぞれ特色ある提案が出てくると考える。その他の災害対応や環境啓発、動線の安全の確保等、一般的な部分についてご意見いただきたいと考えている。

《参加者》先程の議題(1)資料1で建物全体に共通する5つの基本的考え方の説明があったと思うが、要求水準書に盛り込んだ点があれば説明してほしい。

《事務局》基本的考え方の1つである災害時に頼れる施設という視点では、災害に対して強靱な施設として災害時にも運転が継続できる施設を目指している。また、災害時に市民の方の支援拠点として電気も熱もある施設となるため、災害対策を講じて行くことも考えられる。

《参加者》現状の要求水準書には事業概要に示している5つの基本方針を盛り込んでいるが、さらにより施設を目指すための意見を第2回評価会議以降に聴取するという理解でよいのか

《事務局》そうである。

《参加者》運営維持管理において、今後の人口減少を考えると人員確保が困難になることが予想されている。そのため、なるべく人手をかけないで運営できる施設とする必要があり、運営会社との契約においても大きな負担とならないようにする視点が必要であると考えます。

《事務局》人員体制についても民間事業者には提案を求めている。

《参加者》本来は競争性を高めるため分離発注とし、参入事業者の幅を広げ、よりよいものをより安く計画することが市の責務であったと考える。イニシャルコストは多少高価となってもその後のオペレーションまで含めると20年間でそれ以上を取

り返せるため、トータルで一番安価でよりよい価値が見出せるものを追求するためにD B O方式を採用予定であるという理解でよいか。

《事務局》競争性もさることながら技術的な部分も必要であると考えているため、技術と価格面で総合的に一番よい事業とするためにD B O方式の採用を考えている。

《参加者》最近はL C Cの考え方が出てきている。20年ではA社が優れているが35年ではB社の方が優れている場合、価格評価では20年間の金額を評価するが、技術的な評価では35年のL C Cを下げたほうを高く評価するというケースが出てきている。35年施設を稼働させるということを前提に20年間のコストを提案してもらい、それを評価するが、20年目以降の部分もないがしろにしないということであるとする。

《参加者》コストを削減してサービスをどうやって維持する又は向上させるか、必要なサービスを適切に選択する方法をしっかりと議論できる資料づくりをお願いしたい。

【議事（3）今後のスケジュールと議事案について】

＜議事＞

- ・事務局より今後のスケジュールと議事案について説明。
- ・第2回評価会議は11月中に実施することとし、後日日程調整を行う。

＜質問・意見等＞

《参加者》4月上旬に入札公告を予定しており、実施方針を1月中旬に公表予定であるとのことだが、実施方針については早めに議論したほうが良いと考えるため、第2回評価会議は11月辺りに開催してはどうか。

《事務局》第2回評価会議だが、12月中旬の開催予定を11月中の開催で日程調整させていただきたい。

【議事（4）その他】

- ・第2回評価会議の開催場所は新館清掃施設の建設地とする。

【閉会】

以上